

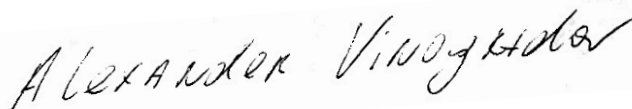
降板となったアレクサンダー・ヴィノグラードフより（要旨）

横須賀のファンの皆様へ

一年前、この公演の出演依頼を受けた際、私は本当に喜んでおりました。東京では既に舞台に立っており、そこで大成功をおさめ、世界でも最も情熱的なお客様に迎えられた経験があったからです。また同時に、この公演はモーツァルトのこの珠玉の作品にタイトルロールでのデビューを記念する機会でもあったからです。昨年、契約書にサインした時からすぐさまこの役の準備に取り掛かりました。しかしながら、その後ここ数ヶ月で私は自分の声が急に変化してきていることを実感するようになったのです。色調は暗く、鳴りは大きくなり、変調はすべて予想よりもはるかに速やかに起こってしまったのです。去る12月には、私としては2度目のヴェルディ「ドン・カルロ」にフィリッポ2世での出演をし、現在メトロポリタン歌劇場にて「ルイーザ・ミラー」に臨んでおり、東京での稽古を始める前にはフランスでの「エルナーニ」に出演する予定です。これらヴェルディのオペラ作品は、現在の私の“新たな”声にとって今や申し分のなく適したレパートリーとなってきています。この点に関して私の師やエージェントとも議論したのですが、かかる状況下でのドン・ジョヴァンニによるロールデビューは今の私に適したことではないとの見解で一致しました。

日本の素晴らしい聴衆の皆様がご期待下さるに相応しい形でこの主役を歌うには至れないことになってしまうでしょう。親愛なる横須賀のファンの皆様を失望させてしまい本当に申し訳ありません。ただ、平素の演奏水準をしっかりと維持するため、時に私たちには思い切った意思決定を行う必要もあるので、藤原歌劇団には、私を選んで下さったこと、また今この決定に際して私に歩み寄ってくださったことにあらためて感謝の念を表し、近いうちに再び来日して、昔私も賞を得る幸運に恵まれた「新しい声」コンクールの街である皆様の横須賀の舞台にて演奏できる機会を得られることを祈念しています。

愛情を込めて



アレクサンダー・ヴィノグラードフ

2018年3月30日、ニューヨークにて

ニコラ・ウリヴィエーリ Nicola ULIVIERI (バス) プロフィール



1967年、イタリアのアルコ（トレント）生まれ。M.ブルネッティの指導の下、ボルツァーノ国立音楽院を修了。1993年ミラノのアスリコ AsLiCo にて「四人の田舎者」でオペラデビュー。1995年スポレート実験歌劇場のコンクールを初め、数々の国際コンクールに入賞し国際的なキャリアをスタートすると、その天性の美声と洗練された歌唱技巧、また見事な演技力によって、たちまち世界の歌劇場にてその存在感を確実なものとする。2006年モーツァルトのオペラ作品における役作りを評価され、イタリア評論家協会から権威ある褒賞であるアッピアーティ賞を授与される。近年では、トリノ王立劇場での「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロール、「清教徒」ジョルジョ、「セビリヤの理髪師」ドン・バジーリオ、ボローニャ市立劇場およびミラノ・スカラ座での「コジ・ファン・トゥッテ」ドン・アルフォンソ、コルーニャのモーツァルト・フェスティバル「エルミオーネ」フェニーチョ、トリエステ・ヴェルディ劇場「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロール、マチュエラータ音楽祭「ノルマ」オロヴェーズ、フィレンツェ5月音楽祭劇場「夢遊病の女」ロドルフォ等に出演している。